

実践・森づくり技術講座（第3回）間伐、造材とロープワーク

【開催日】2018年7月20日(土)

【開催場所】鳩ノ巣フィールド(奥多摩町棚沢)

【主催者】FIT 森林塾

【一文紹介】

森づくりに欠かせない様々な技術を基礎から学ぶ全5回の連続講座の第3回。今回は「間伐と造材」をテーマに、7月20日に開催しました。

【公開記事】

森づくりに欠かせない様々な技術を基礎から学ぶ全5回の連続講座の第3回。今回は、「間伐と造材」をテーマに、7月20日(土)に開催しました。

当日は、曇りの天候ながら気温・湿度も高く、無風の中で始まりました。準備体操、本日の安全の話(作業時の声掛け等)を伝えた後、実習場所へ移動するため山に入りました。実習場所へ行く途中、実習場所も無風状態で湿度も高く、講師よりこまめの給水を勧められていました。

講義は、間伐作業の流れ、道具の使い方を説明し、その後講師が選定した伐倒木の間伐を実施しました。伐倒方向(重心、周りの樹木の枝、ツル、運搬も考慮した方向)の考え方、メインロープ・コントロールロープの使い方・意味を説明し、受け口・追い口を入れ梢の動きに注意しながら、最後の鋸挽き、ロープ操作にて伐倒しました。その後、枝払い、竹べらで樹皮をむき、手元ロープを使い全員で造材の運搬を行い午前の講義を終え昼食としました。

午後は受講生の皆さんによる、間伐・造材の実習を行いました。

午前中の講師の説明を思い出しながら、全体の流れ、注意点、伐倒方向など受講生の皆さん全員で話し合いながら、実際の作業に取り掛かりました。

受け口・追い口の位置や角度など、受講者間で確認・指示を出しながら慎重に行いました。追い口を切った後のロープを引いての伐倒作業をおこないました。

伐倒作業に少し時間がかかりましたが、予定の伐倒方向に倒すことができ、参加者の皆さん、ほっとしていました。

講師からの枝払いの意義、作業方法(元末方向へ)を理解した上で、伐倒木の枝払いを行いました。

枝払いの作業結果が、次の工程皮むきの難易度となります。

檜皮茸に使えるように竹べらで樹皮をむいていきますが、思い通りにむけず、講師からの指導・実演を見聞きし再度作業についていました。

この時期は水を吸い上げており、樹皮をスムーズにむくことができますが、枝払いの手間次第で樹皮を長く簡単にむけるか否かに分かります。

その後、予定通りの時間に下山を開始し、西川の河原にて道具の手入れとふりかえりを行い、無事事故なく怪我なく第3回の講座は終了しました。

今回の講座を受けて、受講生の皆さんからは、

- ・間伐時のメインロープでの引きがきつかった
- ・共同作業の重要性が分かった
- ・安全を心がける
- ・直径15cmの針葉樹を間伐するには参加者全員の力が必要と感じた
- ・皮が簡単にむけた

といった話がありました。

【スタッフ】講師:小島、関、牧田 事務局:芝原

【参加者】受講生:氏家さん、岸本さん、原田さん、福山さん、古谷さん 以上5名

【報告者名】芝原 久(H30)



①本日の安全の話



②受け口



③追い口



④皮むき



⑤道具の使い方の説明



⑥道具の手入れ